

子どもたちの遊びの様子から

2月1日、昨夜の雪で園庭は真っ白になっていますが、あたたかな日差しの中、保育室の前に出したテーブルで年少組の男の子と女の子が二人で色水遊びをしています。

女の子は、小さな氷を探してきて、真っ赤になった小さな手でその氷を持って、作った黄色い色水の中に、その氷を入れようとしています。そして一人こんな話をしながら実験に夢中です。

「(氷を手を持って)そのままぽちゃんと入れてみます。」

「ちょっと氷を入れてみましょう。」

「どうなるかな？」

「ぜんぶ入れたら、どうなるかな？」

すきとおるような素敵な言葉だなと思います。なにか詩でも読んでいるみたいです。子どもって、こんなふういろいろなことを頭の中で考えながら遊んでいるんだなと、改めて教えられる思いがしました。子どもは夢中になって遊んでいるときは誰でも、この子と同じように、不思議だなとか、こうすればこうなると予想したりしながら遊んでいるのでしょう。

これからの時代は「問題を解決する力」がとても大切だと言われます。子どもは興味・関心を持ったこと、不思議だなと思ったことがあると、自分でどんどん追及していきます。自分で予想を立て、いろいろ試してみます。そういうふうに試行錯誤し、工夫しながら遊ぶ中で、子どもは「問題を解決する力」(思考力)を身につけていくのだと思います。そんなことを考えながらしばらくその子の色水遊びに見入ってしまいました。

そこへ別の子どもたちが、担任の先生と一緒に小学校のプールの裏の方から帰ってきたので、男の子に「何してたの？」ときいてみました。すると

「(雪の上にあった)足跡をたどっていたの。」

「飼い主がいないみたい。(犬か猫が)一人で来たんじゃないかな。」と答えます。

4歳、5歳の子どもが「たどる」とか「飼い主」とかという言葉をおんなに適切に使えるんだと、びっくりしてしまいました。

その子は、周りの大人が「たどる」とか「飼い主」とかという言葉を使っているのを聞いて、覚えていたのかもしれませんが。テレビや絵本などで見て、知っていたのかもしれませんが。そしてこの日の犬の足跡を追いかけていく経験に、その言葉を当てはめて使ってみたのだと思います。

そうやって子どもは言葉を豊かにし、「生きた知識」を増やしていくのだらうと思います。

寒い冬ですが、子どもたちは、そんなことはいっこうに気にせず、どんどん外へ出て遊んでいます。そして、確実に学んでいます。こういう子どもたちを見ていると、本当に嬉しくなります。

